

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念を見直し、その人らしく地域の中で生活することを支援していけるか職員全員で確認し、個人を大切に、地域で安心した生活が送れるよう、理念を考えている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員会議などで、理念の意味を考えながら、同じ目標を持って援助、介護の質を上げられるよう話し合っている。玄関や、事務所等に掲示し、理念がいつでも確認できるように取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>事業所理念の掲示を行い、ご家族には入居時並びに家族会で説明させていただいてる。また地域交流、面会を通してわかり易く説明し、パンフレットなどの配布をしご理解していただけるよう努力している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者との散歩中、隣近所の方々と挨拶を交わしたり世間話をしている。回覧板など持ってきて頂いた時、中に入ってもらい、話をして触れ合う機会を作っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の方々と活動に参加している。町内会にも加入し回覧板の行き来もある。また、民生児童委員の方々の紹介にて、ボランティアの方々も訪問して下さる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生児童委員の方々と、地域交流スペースを利用した、色々な活動を話し合い、展開していく努力をしている。また、地域の高齢者に声掛けし、野外行事などへの参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目標・外部評価の結果を全職員に伝え、全員で自己評価を行うことにより、問題点を見つけ出し、即改善するように具体的な案を話し合い、実施できるよう心がけている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価の結果を報告、閲覧してもらい、今後の取り組みについて話し合ったり、検討事項について、経過報告を一つ一つ事例を積上げてサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員の受入により、入居者の要望や意見を参考にサービス向上に役立っている。地域包括支援センターの方々と交流があり、色々な手続きの相談をしたり、ホームに足を運んでいただいたり、こちらから訪問したりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	GH内での勉強会や、外部の講習会や勉強会に参加し、職員全員が制度に対して共通の理解が出来るように管理者が中心となって対応しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで、高齢者虐待防止関連法について話し、理解を促している。また、関連のグループホームや施設の研修に出向き個々の知識向上を図っている。GH内の点検も同時に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	関連施設、他施設での対応が可能な色々なサービス情報を 提案している。(デイサービス・ショートステイ・他のグループ ホームなど)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	サービス開始前にはほとんどの方にご家族と一緒に施設内 の見学をしていただいたり、職員が自宅を訪問させていただ くことで馴染んでいただけるようにしている。また、可能な限り ご家族の面会を頻回にしていたり、一緒に食事をとっていた だいたり、ご利用者様の安心につなげている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	入居者と共に暮らす家族であり、人生の大先輩であるという 考えを共有しており、入居者の得意な分野において学ぶこと が多く、相談しながら物事を進めるように声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	ご家族とは、信頼関係が無ければ共にご利用者を支援する ことが出来ないの常話し合いをもち、信頼関係の構築に 日々努めております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出行事や家 族交流会などにお誘いし、日頃の状態を報告し相談するよ うにして、より良い関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	個々の要望に対応できるように、サービスの提供を行ってい ます。馴染みの場所、地元への外出も実施しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	職員は毎日一人ひとりに声掛けを行い話を聴く時間を作っ ている。利用者同士で支えたり自然と会話が生まれる環境が ある。孤立しないようにソファなどへの誘導を行い利用 者が団らんできるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死去や、退去などで施設利用がなくなった後でも電話連絡や手紙などを差し上げることにより関係を維持し、施設への訪問も受け入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話し合う時間をできるだけ持つように心掛け、本人がどのように暮らしたいのか、本人と話し合いどうする事が最良なのかを再度、家族や職員も交えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に必ず生活暦などを確認し把握に努めている。入居後も折に触れ、ご本人に問いかけ、どのような暮らしをしたいか把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり生活リズムが違うので大きな時間スケジュールだけ設定し、状況に応じて柔軟に対応している。また、身体状況や、できること・理解できることの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、御家族に対して、思いや意見を聞くための話し合いの機会を持ったり、なかなか訪問できない家族には、電話や手紙を利用して意見交換して介護計画の作成に活かしている。職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、職員や家族・本人と話し合い定期的な計画の見直しを行っている。職員が記録する業務日誌やケース記録を参考にした状態の変化や家族・本人の要望により検討の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や生活経過記録・申し送りノートを利用して全職員が勤務開始前に確認することで、情報を共有しその日の介護に役立てている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各医療機関への受診時の付き添い、買い物の支援など、御家族、入居者の希望や要望、日常生活から発生するニーズに柔軟に対応している。遠方の家族の訪問時、ゆっくりしていただくための支援をしている。(希望により、食事を準備するなど)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生児童委員やボランティアの方やご近所の方が訪問していただき、理解と協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの関連施設で行われる化粧教室や、演芸会に参加している。訪問理美容などのサービスも利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などに出席を要請したり、色々な面でご意見を頂いています。また、電話や訪問などでの相談にも対応していただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医で継続して受診できるように支援している。他科受診の際も家族の希望する医療機関を利用することができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域内に専門医があるため、認知症の診断や治療方針について指示や助言をもらって連携を取っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携医療機関の看護師と連携し対応している。日頃の健康管理や医療面での相談にも対応してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携を図り、家族の希望を伺いながら、医師に相談し、対応可能な段階でなるべく早期退院へ向けた取り組みを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議や家族交流会の中で看取りについて取り上げ、それぞれの家族の気持ちをお聴きして、支援につなげている。在宅医療の関係病院との話し合いの場をもち、今後の方針を決めていく作業をしている。	○	現在、話し合いを進め検討中。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人や御家族の意向を大事にしつつ、医師、看護師と連携をとり、安心して最期を迎えられるように話し合いを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設に移られる際は、アセスメント表やケアプランはもちろん、生活環境や、支援の内容、注意点などの情報を提供して住み移りのダメージを最小限に食い止めるように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様の誇りやプライバシーを損ねないように日々尊敬の気持ちを忘れないように意識の向上に努めています。問題があれば管理者による職員の個別指導を行い改善を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限りご利用者様の選択肢を増やし、職員からの押し付けをしないように注意している。また、意思疎通の出来ないご利用者様は、表情などを読み取り、対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御家族の希望として、規則正しい生活をしてほしいという意見もあり、大まかな1日の流れは決まっているが、基本的にはご本人の体調、意向によって柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えに関しても洋服などこちらが決めるのではなく3種類ほどの中から選んでいただいている。美容室などでも馴染みの美容室が利用出来るように柔軟に対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際、利用者の食べた物を準備できるように心掛けている。好き嫌いの把握はもちろんですがなるべく旬のものを食材として食事を楽しんでもらっている。出来る方が出来ることをしていただける環境づくりをしてお手伝いしていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好物の把握は行っている。今のところ飲酒や喫煙の希望者はいない。お菓子などについては職員で管理することも有るが基本的にはご利用者様に問題が無ければ楽しんでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人も習慣・パターンを把握し声掛けを行っている。トイレ誘導により気持ちよく過ごしていただけるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中帯は可能な限り、声掛けによる反応を見ながら入浴を実施している。基本的な入浴日は決まっているがその日のご本人の希望により対応している。週に2から4回は入浴を楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を促しているが一人ひとりの体調、表情を見て要望を聞きゆっくりと休息が取れるよう支援しています。夜間など寝付けられない方とは、話をしたり安心していただけるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように、色々な場面を作って、声かけをしている。それぞれに得意なことをみつけて、挑戦していただくように心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方がほとんどなので、小口現金としてご家族様から現金をお預かりして、外出時にご自分で好きなきに使用していただいている。支払いなどをすることによって社会性の維持を図っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により買い物や近所を散歩したり心身の活性化を図っている。出不精の方もいらっしゃるので、全体の外出行事を行ったりし支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の勤務調整を行い個別の外出対応も行っている。家族の協力もいただいて支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、職員が電話をかけて、話していただいている。また、定期的に家族の方に電話をしていただいている方もいる。手紙が書ける方は、声かけをして手紙が出せるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも出入りしやすい雰囲気作りを心掛けている。訪問時間は一応有りが時間外でも訪問しやすい時間に来ていただけるよう準備している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中でケアを振り返り、気づいていない身体拘束はなかったか点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個人の行動パターンを把握して、外出したい様子の時は、さりげなく声をかけて一緒に出かけるようにして、支援をしている。ドアの開放は心配であるとの意見もあるが、ドアを開放して鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者と共に行動しさりげなく情報収集を行っている。夜間帯は、2時間おきの巡視を行い全居室の音が聞こえる場所で待機しすぐに対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管管理が必要なものに関しては職員で管理し、それ以外のものに関しては使用时注意して見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットのこまめな記載を行い、リスクマネジメントを施設全体で行っている。また、事故報告書などを作成し原因の究明を行って再発防止に役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応を題材にしたロールプレイングを行い、実際に体を使って覚えてもらっている。夜間時の対応マニュアルも作成し不測の事態にも備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署とセキュリティ会社の方々の協力を経て、避難訓練(特に夜間帯での訓練)や避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を行っている。施設外への警報設備があるため地域の方々にも協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり起こり得るリスクについて把握しておき、そのことで抑制してしまわないように配慮している。自由な暮らしの大切さを家族にも理解していただき、事業所としての取り組みを浸透させている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、普段の様子を把握しているので、顔色や食欲がないなどの変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、記録をつけて少しでも異常があれば様子を見守り、おかしいと思ったときには、すぐに主治医に連絡して、指示をいただくようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して、いつでも確認できるようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態の変化が見られた時には、日誌や申し送りノートに記録やメモを取り、医療機関と連携が図れるようにしている。服薬時には、本人に手渡し、服用されるのを確認している。服薬管理表でチェックしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から野菜を多く取り入れたメニューで食物繊維をたくさん摂取するように心掛けている。決まった時間に声かけをして、トイレに誘うようにしている。なかなか排便がない方には、下剤を使うこともある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに歯磨きの声かけを行い、職員が見守ったり、介助を行っている。週1回義歯洗浄剤を使って、職員がきれいに磨いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った食事にならないように、日々食事の内容や摂取量を記録している。職員は、一緒にテーブルについて食事をするので、大まかではあるが、把握している。普段から水分量の少ない方には、積極的に声かけをして支援している。定期的に関連施設の管理栄養士からアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関してのマニュアル作成を行い、予防に努めている。また不測の事態に対しての勉強会も開催している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は買いためをするのではなく小まめに買い物をおこなっている。まな板、食器は毎日の洗浄や週一回の漂白を行い衛生面にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の作りが暗いので雰囲気良くなるように月ごとに人形を飾り季節感を演出している。玄関入り口にはプランターなどに花を植え明るい雰囲気作りを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関が暗いので少しでも明るい雰囲気が作れるように、いつも季節感のある人形の置物や花を生けるようにしている。カウンター越しに台所のようなすが、見えるようになっているので、ご飯や料理の匂いや食材を刻む音、食器を洗う音など生活感を味わえるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを準備して一人でもお友達同士でも過ごせるスペース作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、今までご自宅で使っていた家具を持ち込む方や家族の写真、使い慣れた目覚まし時計など、安心して過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は24時間行い、室温湿度調整は個々で管理している。消臭剤の必要な場所には目に触れない場所に設置している。小まめな掃除により悪臭が出ないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。各場所に手すりなどを準備し、一人でも安心して生活できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人の状況に合わせた環境整備に努めている。混乱や失敗が生じたときは職員会議を行い解決に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さいが中庭がありご利用者が自由に出入りできるようになっている。和室からの出入りが出来る為、日向ぼっこなどを楽しんでいただいている。また、プランターなどの植え替えを利用者と共に行い季節感のある活動をしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居様が自分らしく生活できるように支援を続け、外出行事や、レクリエーションなどへ家族の参加を呼びかけたり、地域の方々の参加協力を頂くようにはしている。地域民生児童委員の紹介でボランティアなどの受入回数を増やし利用者様の個々の要望に対応できるよう聞き取りには十分時間を割いている。